

学校規模適正化計画を問う



せのおひろゆき
妹尾博之議員



笠岡市立北木中学校

議員 北木中学校が令和2年度に休校との報道があった。計画年度より早くこうした状況になることに、どのような要因があると考えているのか。

教育部長 事情は分かりかねるが、保護者としては、全校生徒が2人とか1人という学校へ進学することへの課題を最重視されての転居だったと考えている。従って保護者の就労や地場産業育成との関連はないと捉えている。

議員 状況により、統廃合の時期を早める可能性があるとしている。最終的にいつごろ決定するのか。

教育部長 統廃合の時期が変わる場合もあることは、本年2月に大浦、豊浦、金風呂地区で説明会を

開催し伝えている。

議員 今回の状況を受けて、他島への影響をどの様に考えているのか。また早期の統廃合は、北木中学校に限るのか。

教育部長 小・中学校の規模適正化計画の修正版を元年度末に策定し報告する。実施時期を明記し、状況の変化に合わせて対応する。

議員 休校後の建物の利用計画はどうなっているか。選択肢の中に、日本遺産を形成する島としての再利用を考慮し、管理を石材組合に委託する考えがあるのかたずねる。

教育部長 引き続き教育財産として維持管理を行う。他の用途への活用は現在考えていない。

笠岡市の人口について問う



やまもととしあき
山本俊明議員



議員 笠岡市の人口は平成12年に6万人を割って以来、平成22年に5万3981人、令和2年1月末に4万7307人と9年間で6674人減少した。笠岡市人口ビジョンを進めることによる笠岡市の姿をどのように描いているのか。

市長 笠岡市は、企業誘致が進んだこと、国道2号バイパス玉島笠岡道路が令和7年度に完成予定であること、篠坂パーキングエリアのスマートインターチェンジ整備計画が進んでいること、新たな住宅団地の造成やアパート新築数の増加など、人口増加への兆しが見えている。行政が先頭に立ち環境やイメージを変えていき、市民に働きかけて市民の意識を変えて、市への愛着を持ってもらい、多様性を受け入れる土壌をつくりたい。

議員 立派な建物や道路ができた、必ず人口増になるのか。スマートインターチェンジができれば、必ず陶山地区は人口増になるのか。人口問題を考えるに、市は各地域に対して地域の特殊性を踏まえた人口ビジョンによって、例えば北川地区はこのような形にする、新山地区はこのような形にする、皆さんも努力してくださいと示さないから、人口が減ると思う。学校を統廃合し、小・中一貫教育をしたら人口減少が止まるのか。私は、人口は増えないと思う。ポイントが違うように思うがどうか。

市長 市の施策はブドウの房と同じで、子育て支援、教育、高齢者ケア、インフラ整備等一つ一つの施策が充実しないと定住あるいは社会動態のプラスにつながらない。